

9. 当院における FPD 移動型 X 線撮影装置の運用と有用性

大阪赤十字病院 ○高木 真、玉木 守、加賀 久喜

【目的】

当院では平成 24 年より FPD を用いた移動型 X 線撮影装置（以下：FPD）が稼働しており、当初有線による患者情報の取得及び画像転送を行っていたが、電子カルテの更新に合わせて無線 LAN による患者情報の取得及び画像転送という運用に移行した。今回、従来の CR を用いたポータブル撮影と FPD と無線 LAN の使用による撮影業務の変更点も含めた運用について比較を行い、FPD ポータブル装置の有用性について検討を行う。

【方法】

従来の CR を用いたポータブル撮影と FPD を用いて無線 LAN 使用による撮影業務の作業効率の比較を患者受付から画像転送までに必要とした時間の比較を行った。作業効率の比較方法として、CR 及び FPD を用いて、ICU 及び救命病棟入院中の患者 1 名から 3 名の胸部ポータブル撮影を行い、患者受付から画像確認までの経過時間を測定し、CR 使用群と FPD 使用群それぞれ測定を行い、Mann-Whitney の U 検定により統計解析を行なった。危険度は 5%以下を有意とした。

【結果】

患者 1 名から 3 名において、CR 使用群と FPD 使用群では 1%以下で FPD 使用群において、患者受付から画像転送までの時間が有意に短縮した($P<0.01$)。また、患者数が多くなるほど CR 使用群と FPD 使用群の標準偏差の差が大きくなった。

【考察】

FPD 使用群が 1%以下で CR 使用群に比べ FPD 使用群に有意な差が出たのは、FPD 使用群においては、読み取装置と IP の紐付が不要なため作業効率の向上が図られたと考える。また、FPD を使用することにより読み取装置と IP の紐付が不要なため患者情報の誤登録や撮影部位間違えを起こす可能性が無く、医療過誤の防止にも寄与していると考ええる。